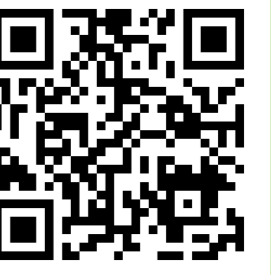


ショックを用いる貧困表象の道徳的・政治的悪性に関する一考察 ——貧困表象への留意のために——



筑波大学人文社会系助教 木山 幸輔

フルペーパーURL: <https://researchmap.jp/kosukekiyama> (パスワード: 20230610)

以下の時間におります(※「開発と文学」ラウンドテーブル参加のため) :

一緒に考えてくださる方は、お気軽にお声がけください。いつか、でもありがたいです(連絡先: kosukereal@gmail.com)。

一緒に考えてくださらない方、他者を対等な認識の主体だという態度を示せない方は、お声がけはご遠慮ください。

※木山が不在のとき、なにかしらお考えになられたことなどありましたら、メッセージを残していただきましたら大変ありがたいと思います:

※あるいは、もし可能ならば何れにありたい点——貧困表象に関するご経験、お感じになられてきたこと。

■1. 背景：ショックを用いた表象 (写真・映像・語り——考察の定点となる事例たち)

(私的に持参した写真等をご覧になりたければお声がけください cf.著作権)

e.g., ライヴ・エイド (1985)

e.g., 報道写真家ケヴィン・カーター「ハゲワシと少女」 (1993)

e.g., 千葉大学の研究者によるホワイトバンドプロジェクトの語り (2007)

e.g., 国連UNHCR協会によるシリア難民支援募金 (2018)

e.g., 「世界のレイプの首都」コンゴ (DRC) という国連・報道機関 (現在)

→「貧困ポルノ」「飢饉ポルノ」といった批判も (木山2023)

Cf. 2018年ノーベル平和賞デニ・ムクウェゲによる、ショックへの批判

■2. 本報告の目的

1. ショックを用いる貧困表象 (e.g., 写真・映像・語り) が孕む道徳的・政治的留意点を明示化する

2. 貧困のもとにある人を対等者として描くことの重要性
——その範例をいくつか提示

■3. 方法：哲学・政治理論・批評からの、アナロジーと応用

・戦争写真とのアナロジー (cf. スーザン・ソントグの写真批評)

・感情に訴えることの政治理論的考察の参照 (cf. ハンナ・アレントによる区別)

・対等性に関する分析 (系政治) 哲学の貢献を応用

■5. ショックを用いる表象のありうる諸問題 (そうした表象の諸特徴と対応して)

5-1. 誤った表象と認識的不正、その政治的帰結

a. 誤った表象

e.g., 「ハゲワシと少女」ではなく、少年
子供のそばには母親

b. 2つの認識的不正

証言的不正:

誰か (例えばアフリカの誰か) の言葉を求めない。
沈黙化させる

解釈的不正:

社会的経験の解釈において、力の弱い集団が周縁化される。

c. 誤った表象と認識的不正を伴いつつ、一般化されるとき、

ステレオタイプが作られる

e.g., <遅れた危険な>アフリカ移民への恐怖、ゼノフォビア

e.g., コンゴを「世界のレイプの首都」と呼ぶことが招く帰結
(Mukwege 2021)

→問題なのは、表象の文脈を提示せず、表象において用いられる人々が貶められていること

5-2. 目的と手段の望ましさの位置

a. 最終的な目的 (貧困削減) と組織的目的 (e.g., 組織維持) のズレ

——ある組織の行動が政治的に問題がある帰結を生むe.g., ビアフラ紛争

b. 目的のための手段として表象に用いられる人が対等者として扱われないことは、その人の自己アイデンティ

ティの形成を阻害し、統合された自己の感覚を妨げる (cf. 木山2022)

cf. 福利 (功利性・ケイパビリティ) の平等主義も同型の問題

→問題なのは、表象をめぐる平等な地位が認められていないこと

5-3. 同情の憐れみへの逸脱

(cf. アレント『革命について』)

・同情(compassion)——個別の人の苦しみに打たれること

・憐れみ(pity) ——一般化された、まとまりとしての苦しむ集団への感傷

憐れみの帰結:

a. 貧困の下にある人の非人格化

b. 現実との遊離

(cf. ライヴ・エイド)

→abの結果、多様な現実、多様な人のあり方を無視して一般化する

→問題なのは、政治的な空間における多様な人々や現実の、個別的な具体性が失われること

5-4. 誤った認識を導く：客観性を標榜しつつ、誘導してしまう

→問題なのは、構成の背景が記録され、誠実に開示されていないこと

5-5. 認知の仕方が強化されてしまう：「多くの声」が「ただひとつの声」に代わられる

→問題なのは、唯一のものとして提示され異論を招かないことが目指されること

■7. いくつかの範例的(exemplary)表象

7.1. 表象を提示する場面において

・ジェフ・ウォール：「戦死した兵士たちは語る」 (Sontag 2003=2003)

・ジョナサン・トーゴヴニク：『意図された帰結：レイプにより生まれたルワンダの子供たち』

いくつかの特徴:

1. 多様な言葉が、写真とインタビューを見るものを<他者の視点からも、ものを見る>という意味で考えさせる。

e.g., 子を愛す母の視点、愛せない母の視点。

2. 決してその人の声や経験を理解しきったとは言えないだろう経験 (解釈的徳)

■4. ショックを用いる表象の特徴

(cf. ソントグ『他者の苦痛への眼差し』他)

4-1. 自他区分/表象に描かれる他者には苦しむ地位

e.g., 死にゆく人々と、救える人々

4-2. 目的の手段として、表象が用いられる

e.g., 貧困削減、組織維持、資金・名誉etc.

4-3. 感情への訴えかけが目指される

Cf. 心理学の二重過程論：寄附行為を導く表象の同定 (数でなく少女の写真など)

4-4. 客観性が標榜されるが、表象は意図的に作られる

e.g., 写真は「真に写し」とるとされつつ、構成される

4-5. 表象を受け取る主体は理解ではなく確証をする

e.g., ハゲワシに食べられそうな少女

→アフリカ (人) =危険

■6. 以上から留意をまとめる

1. 表象において貶められず、ともに認識的な営みに参与する対等者として貧困の元にある人を描くことが大事

2. 自らを提示する対等者として貧困のもとにある人を描くことが大事

3. 個別的な同情と、他者とともに自らの言葉と行為を考え、表象される人、表象を受け取る人の多面的なあり方を尊重するような仕方が大事

4. 表象における構成の意味が明示され、問い直しに開かれることが大事

5. 問題となる事柄への複数の(plural)な観点が維持されていることが大事

7.2. 表象を受け取る場面において

・表象をもとにした哲学対話

いくつかの意義:

1. (対話の理想化は危険だが) 限定される参加者とはいえ、多様なあり方への感受性を涵養し、対等なあり方を考える場の創出・維持の経験

2. 個別の他者との関わりの中で、相手のなかに、自分では理解できていない (理解することもできない) 見方や考え方がありうることの承認 (解釈的徳) (cf. 佐藤2019)

■8. おわりに

○本報告：留意と範例の提示を目指す考察≠一般化を目指す実証社会科学、狭義の公共政策研究

○言っても良さそうなこと

1. 貧困にかかわる表象を示したり受け取ったりしていく際に、そのことがもつ道徳的意味、政治的意味を真剣に受け止めることが、常に求められている。

2. あなたが参与する実践で、考え続けていく仕方は、(範例はありながらも、あなたの言葉と行為は創出され続ける世界で意味が与えられ続けるのだから) あなたに委ねられている。

謝辞：本報告はJSPS科研費21K12821の助成による成果の一部である。

■9. 文献 (詳細は報告論文参照)

○特に報告論文で多く依拠した参考文献

ハンナ・アレント(1969)2017大久保和郎訳『エルサレムのアイヒマン：悪の陳腐さについての報告 [新版]』みすず書房。

ハンナ・アレント(1975)2014『革命について』ちくま学芸文庫。

ロニー・ブローマン(2000)高橋武智訳『明日への対話』人道援助、そのジレンマ：「国境なき医師団」の経験から』産業図書。

スーザン・ソントグ(2003)北条文雄訳『他者の苦痛へのまなざし』みすず書房。

ミランダ・フリッカー(2023)佐藤邦政監訳飯塚理恵訳『認識的不正義：権力は知ることの倫理にどのようにかわるのか』勁草書房。

木山幸輔(2022)『人権の哲学：基礎的価値の探究と現代世界』東京大学出版会。

木山幸輔(2023)『貧困とどう向き合い考えていくか? : あるコンゴ人医師による提起と政治、思考』飯田高・砂原康介・近藤

純子・丸山美穂『世の中を知る、考える、変えていく：高校生からの社会科学講義』有楽閣、近刊。

齋藤純一(2008)『政治と複数性：民主的な公共性について』岩波書店。

佐藤邦政(2019)『善い学びとはなにか：<問いなおし>と<知の正義>の教育哲学』新曜社。

○写真集

Torgovnik, Jonathan (2009) *Intended Consequences: Rwandan Children born of Rape*. New York: Aperture Foundation=

トーゴヴニク、ジョナサン『写真・インタビュー(2010)竹内万里子訳『ルワンダジェノサイドから生まれて』AKAARA.

Torgovnik, Jonathan / ジョナサン・トーゴヴニク写真・インタビュー (2020) 竹内万里子訳『あれから——ルワンダ ジェノサ

イドから生まれて』Disclosure: Rwandan Children Born of Rape』Akaara.